

研修報告書 No. 7

所 属：県外大学病院研修医
研修先：医療法人聖真会 渭南病院
特定医療法人長生会 大井田病院

10月の4週間、高知県にて地域研修をさせていただきました。私は東京生まれの東京育ち、小中高大そして研修病院も東京を選択したため、地方に住んだ経験がありません。大学生の頃より研修は東京で行おうと決めていた為、せめて地域研修は地方の病院を選ぼうとも心に決めていました。そして所属の研修病院の地方研修先として高知県があることを知った時は、募集前から我先にと志願させて頂きました。高知の食と自然を満喫したいという下心もあったことは否定致しません。

今回高知県では、大井田病院と渭南病院にて2週間ずつ研修を行いました。大井田病院では、外来にて縫合など外傷処置を行ったり、1泊2日の沖の島診療所出張や地域包括支援センター、訪問診療、訪問看護など地域医療に関わる様々な施設や現場を体験させていただきました。渭南病院では、普段あまりやることのない外来診察をやる機会が多く大変勉強になり、またCV、縫合、腹腔穿刺といった手技もやらせて頂きました。

今回の地域研修を通して主に感じたことは2つあります。まず1つ目は地域連携医療です。大学病院で研修をしているとほぼ急性期の現場でしか働くことはなく、退院調整に関してはソーシャルワーカーに丸投げしていました。そのため退院に向けての支援や、退院後の生活に関して実際の現場を知ることはありませんでした。この研修中訪問診療や訪問看護、地域医療センターでの訪問調査にて何度か患者様のご自宅に伺う機会があり、高齢者の方々がどのような環境で生活しているかを拝見することができました。中には生活しているのが信じられないようなご自宅もあり衝撃的でした。衝撃的だったことがもう1つあり、それは宿毛市にて在宅患者に対する医師と看護師が共有することのできるwebカルテが存在したことです。この高齢化社会で医療と介護が介入し合うことは必要不可欠でありながら、それぞれが担当分野の線分けをきっちり行っているため現状なかなか難しく感じます。そのためこのシステムは先進的であると感じましたが、同時に狭い地域だからこそ可能なシステムであり、東京のような人口の多い地域では難しいのではとも感じてしまいました。しかし「都や区といった大きな括りではなく、もっと細分化した地域ごとから始めていき広げていけば不可能なことではない」という意見も聞き、今後地域医療をになう立場になった際、他の機関と連携しその一端を担えればと思いました。

もう1つは総合診療の重要性です。東京では医師の数は十分いるため、それぞれの科の医師が専門の科の更に専門分野を極めて行くことが普通と捉えていました。しかし、当然ながら今回の宿毛市や土佐清水市を初め多くの地区では東京の様に専門医師が揃っている場所などまずありません。そのため地域では自身の専門以外の領域の診察もせざるを得ず広い知識が求められ、大井田病院や渭南病院でも外科医が内科診察をするのが当たり前でした。この研修中、外来を見学または実際やらせていただく機会が多々ありましたが、多くの患者様が、主訴がその医師の専門分野じゃなかったとしても頼って来ており、広い分

野を見てくれるという安心感や信頼関係が成り立っているのだなと感じられたことが印象に残っています。

この1ヶ月間は、今までの研修では考えることのなかった新たな視点で医療を考えることの出来た大変貴重な機会でした。まずは研修を終了し1人前の耳鼻科医となることが先決ではありますが、将来今回の研修で体験したことを思い出しつつ、地域医療にも関わっていければと思います。短い間でしたが、病院研修や観光、食事と高知を十分に感じる事ができた1ヶ月間でした。大変お世話になりました。